

		分類Ⅱ							
		① 自然・都市環境		② 生活・コミュニティ		③ 経済・経営的視点		④ その他	
		キーワード	ご意見内容	キーワード	ご意見内容	キーワード	ご意見内容	キーワード	ご意見内容
分類Ⅰ	A 公園・緑化のあり方に関するご意見	SDGs	「持続可能な社会を学ぶフィールドとしてのみどりの活用」について、SDGsを「学ぶ」ことも大事だが、幅広いSDGsの目標を支える役割としてみどりが必要ではないか。	ソーシャル キャピタル	地域に住む人に愛されてこそ公園だと思う。 ソーシャルキャピタルの増進や社会的つながりを増やす取組み、居場所づくり等を追記してはどうか。	循環型社会	持続可能な社会情勢の中でサーキュラーエコノミーという循環型の経済が重視されている。	環境・社会・経済のつながり	みどりは存在効果だけでなく、生物圏と生活社会と経済が縦に繋がることが重要で、まちづくりとどう接続するかが重要。生活社会における塊ごとに、どういった社会をめざすかをもう少し細かく考えてはどうか。
		生物多様性	雨庭のような水の吸収と生物多様性、くつろぐレクリエーションをどう共存させていくかという矛盾している形を具体的にどう着地させていくのかという社会実験をしてはどうか。		ソーシャルキャピタルの向上や、シビックプライドの醸成といったキーワードも盛り込むべき。		「循環型社会」とか「順応型管理の検討」というような言葉を入れてもいいのではないか。	オンリーワン都市	あり方2の都市の個性・魅力については、都市間競争の中でオンリーワン都市を目指す方向性が重要。オンリーワンを目指すのであれば、自然環境と歴史文化をベースに探っていく必要があり、特にオフサイト効果が重要な部分。
		安全・安心	昼間人口の多い都市であり、各ターミナルに帰宅困難者が発生するため、安全安心は居住圏だけではないということが抜けていると思う。	心身の健康	社会の変化として健康づくりはもう少し前に出してもよい。	イノベーション	新しいイノベーションを増やすには多様な主体の活動の場等が不可欠。公園・みどりは憩いの場であるとともに、新しいイノベーションを生み出していく場という位置づけも必要。		オンリーワン、大阪ならではの個性魅力というものをもう少しうまく表現できないかと思った。
					大阪市は市民の健康寿命が下位であるため、健康寿命の向上についても盛り込むべき。		人中心のまちづくりの中で、新たな価値を創造していくという視点も必要。	シビックプライド	シビックプライドの観点から、みどりの量の話だけでなく、公園の使いやすさ、利用しやすさについても盛り込んでもらいたい。
					あり方2について、みどりにおいても、よりイノベティブなまちにしていける必要がある。多様性のあるところに多くの人々が集まり、人々が集まるところにイノベーションが生まれるという観点を盛り込むと良い。			ソーシャルキャピタルの向上や、シビックプライドの醸成といったキーワードも盛り込むべき。（再掲）	
	B 基本方針に関係するご意見	グリーンインフラ	街路樹は一番身近なみどりであり、大都市では公園以上に大きな意味を持っているが、様々な課題もある。公園行政だけで改善できるのではなく、都市インフラとの関係性が大きな課題である。	地域特性やニーズに対応したみどり	高齢者が多いところでは、高齢者に訴えかけるようなみどり、子どもを増やしたい、若い世代に来てほしいところでは、戦略的なみどりの配置も考えられる。	持続可能な管理	単なる少子高齢化の話ではなく、担い手の高齢化やコミュニティの希薄化などの状況がある中で、担い手の問題も含めた具体的なプランを作っていくという観点も加えてほしい。	パートナーシップ	あり方3においては、タイトルに「官民連携」、「公民連携」などの文言が入るとより趣旨に沿ったものになるのではないか。
			自然の緑に恵まれず、緑量が少ないことは大阪市の弱みとして認識すべき。緑量が少ない中、色々な機能を持たせるべきみどりを、色々な工夫をして増やし、かつ面的な増加も諦めてはいけない。		市民の方々が自分の身近な緑に対してどう思っている、どういうところに不満を感じているのかということをしかりとリサーチした上で、ベースになっている指数が一体どういうことを意味しているのかということを、行政が深く把握しないといけない。		「循環型社会」とか「順応型管理の検討」というような言葉を入れてもいいのではないか。（再掲）		民間の力を導入する時間消費型の公園をつくるために官民連携していく方針があってもよい。
			みどりの多面的な機能をいかに点的・線的・面的につなぎ合わせていくのかというグリーンインフラの概念が重要。		公園の機能について、市民ニーズとの乖離が生じていることが大きな課題だと思う。新たなニーズに対応した公園のあり方についても議論が必要。		建設型社会からレジリエント型社会へシフトしていく中でイニシャルコストばかりの議論ではなく、メンテナンスの費用に関しても含めて議論する必要がある。		あり方3について、市民・事業者の参画は必要であるが、リードは行政がする必要があると思う。
				みどりの活用	地域福祉や地域のつながりをつくる可能性があるという視点でも、みどりの活用が今後も重要になる。	選択と集中	厳しい財政状況の中、どのように資本を投入していくか、「選択と集中」の視点も必要。		
							大阪市の生産緑地は約80ha程度あるが、うまく活用して展開していくことはひとつの方策。	オフサイト効果・経済効果の発揮	
							あり方2の都市の個性・魅力については、都市間競争の中でオンリーワン都市を目指す方向性が重要。オンリーワンを目指すのであれば、自然環境と歴史文化をベースに探っていく必要があり、特にオフサイト効果が重要な部分。		

		分類Ⅱ							
		① 自然・都市環境		② 生活・コミュニティ		③ 経済・経営的視点		④ その他	
		キーワード	ご意見内容	キーワード	ご意見内容	キーワード	ご意見内容	キーワード	ご意見内容
分類Ⅰ	C 個別施策に関係するご意見	植栽環境の改善	欧米では、樹冠を拡げながら根の環境を向上させる、根の張れるスペースを担保することで風に強い樹木を作るという方向に進んでいる。	帰宅困難者への対応	昼間人口の多い都市であり、各ターミナルに帰宅困難者が発生するため、安全安心は居住圏だけではないということが抜けていると思う。（再掲）	社会実験の実施	雨庭のような水の吸収と生物多様性、くつろぐレクリエーションをどう共存させていくかという矛盾している形を具体的にどう着地させていくのかという社会実験をしてはどうか。（再掲）		
		ブルーカーボン	計画では海域についてどう考えるかが抜けている。ブルーカーボンは非常に重要であり、港湾都市としても重要な視点。	暫定的な緑地の活用	空き家や、密集市街地の中で使われていない暫定的な緑地をどうするかも扱っておくと、管理の在り方から地域との関係性も考えやすくなる。	収益等を活用した公園管理	公園管理の視点から、公園としての何らかの収益が得られるマネジメント、又はSDG s 社会貢献枠や営業権から公園管理の負担を分けていくという視点があってよい。		
		食糧供給	大阪市の生産緑地は約80ha程度あるが、うまく活用して展開していくことはひとつの方策。（再掲）			企業との連携	企業が多く立地しているという強みがある以上、企業とどう連携していくという話がどこかに出てこないといけない。企業の姿が見えず一般居住者の姿しか見えていないので、企業集積地の大都市であることを入れてもらいたい。		
			地球環境への負荷の低減と同時に、食糧供給やバイオマスとしてのエネルギー供給をしていくことは大都市では必要。			事業者・地域主体の管理	街路樹管理は公共が行っているが、街路樹の掃除や植栽管理などを事業者を含めた地元の方に任せつつある都市の事例もある。管理のあり方を検討していくことを前に出しても良いのでは。		
			大阪市の特に人口が増加している中心部6区ではタワーマンションに住んでいる人が多く、1人当たりのみどりも減少している。タワーマンションに住む人などが農業をしたり、作物を育てたいと考える傾向もあり、公園などを活用した食糧生産する取組みは検討していく必要がある。また、エディブルガーデン、シビックガーデンという形で学生等が公園で作物を育てる場を設けることは可能なのではないか。						
			循環型社会の中で子供の環境学習や有機物質・バイオマスの利用等を考えると、一部エディブルランドスケープみたいな話が入ってきてもいいのではないかと思う。						
	D 基本計画の整理方法に関係するご意見							-	地域の方が自分たちには担える役割があると見出せる計画であることが重要。
								-	市民が具体的にイメージできるようなことがないと、市民に協力・賛同をいただくのは難しいと思う。市民の身近な公園においても、こうやって変わっていくんだよという具体的な部分を分かりやすく入れると、膨らみが出てくるのではないかと思う。
								-	ワクワクできるような魅力的な表現が今後入れられると良い。
								-	みどりは存在・利用・媒体効果が複雑に絡み合っているので、一概に当てはめるだけでは理解しにくい。効果と機能の概念整理ができると良い。
								-	「国が示す公園のストック効果の分類等を参考にしながら、みどりの機能別等に分類した」とあるが、大阪市ならではの視点として、分類できない機能が将来にわたって重要。
								-	一律に少子高齢化といわず、区別の展開や年齢による高齢者の扱いについて読み解く必要がある。
								-	特にいま求められているのはアウトプット型指標ではなくて、アウトカムとしての効果を具体的にどのような形で指標化していくのかというのも非常に重要な視点である。